

第6章 計画の将来像実現に向けた方策

本計画では、先に述べた3つの基本視点や4つの基本目標を踏まえ、将来像である「だれもが安心して暮らせるまちづくり～ふれあい、わかりあい、支えあいのまち ながおかきょう～」を実現するための方策として「地域健康福祉プラットフォーム構想」をすすめます。

「地域健康福祉プラットフォーム構想」をすすめるにあたり、「健康福祉コミュニティの形成」「自助—互助—共助—公助」による生活支援システムの構築」「ボランティア活動促進システムの構築」を具体的施策として位置づけます。

地域健康福祉プラットフォーム構想

- 健康福祉コミュニティの形成
- 「自助—互助—共助—公助」による生活支援システムの構築
- ボランティア活動促進システムの構築

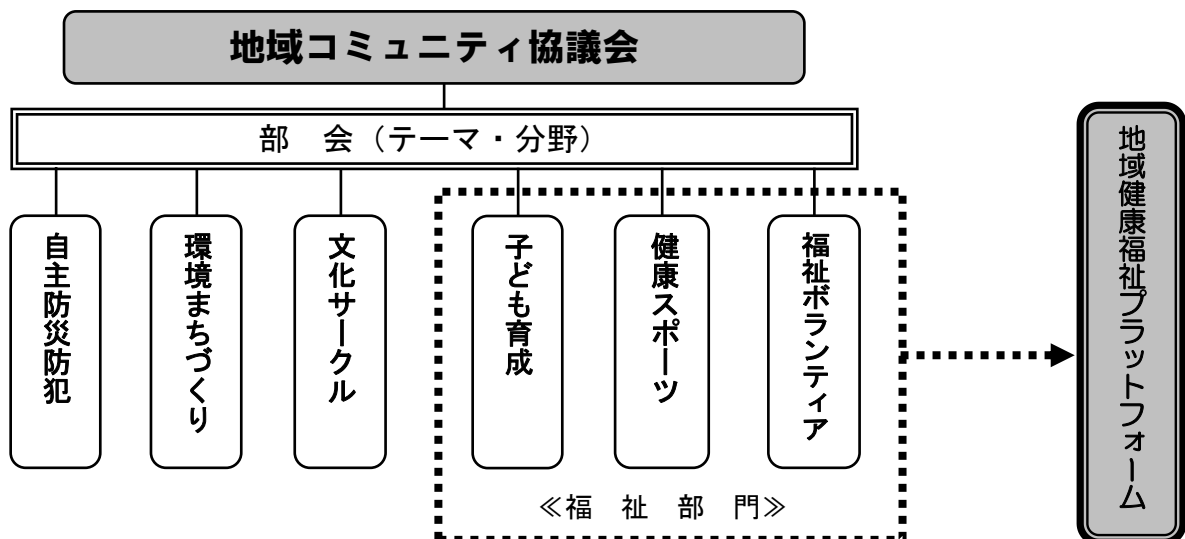


○地域健康福祉プラットフォーム構想

地域健康福祉プラットフォームは、特に健康福祉をはじめ様々な生活課題を抱えた人々からの相談を受け付けたり、住民が抱えている生活課題を掘り起こしたり、把握した生活課題への対応策を検討したりすることができる拠点をめざします。

地域健康福祉プラットフォームは、平成15年3月に策定した「長岡京市地域健康福祉計画」において提案されました。その実現に向けて、現在では各小学校区で設立をすすめている地域コミュニティ協議会の福祉部門を地域健康福祉プラットフォームとして位置づけ、各小学校区単位での地域課題の把握や解決策の検討に努めようとしています。

■地域健康福祉プラットフォームの位置づけ（例）



現在、地域コミュニティ協議会は平成21年度からモデル地区として長岡第七小学校区で、平成22年度からは長岡第四小学校区、長岡第九小学校区でそれぞれ取組をすすめています。長岡第七小学校区では、「福祉ボランティア」「健康スポーツ」「子ども育成」などのテーマ別での部会を設置し、それら部会代表や校区各団体代表がフラットに集まる連絡委員会で、各部会での取組状況や課題などの情報交換を行っています。また、その上部組織としての本部役員会では事務局長・事務局員や校区各自治会長の参加も交えた会議体を設置しています。

地域健康福祉プラットフォームは拠点づくり以外にも、福祉・保健・医療の関係機関やボランティア団体などとの連携を図る必要があります。

今後は、全小学校区での地域コミュニティ協議会の設置をめざすとともに、それらが地域の身近な相談窓口や解決可能な問題への対応に努めていきます。また、緊急度や深刻度の高い問題に対しては専門機関や団体へつないでいく役割を務めます。

○地域健康福祉プラットフォームの推進に向けて

生活環境の変化や核家族化により市民のライフスタイルが昔に比べて変化しています。地域社会への関心も薄らぎ、本来、地域に備わっていた相互扶助機能を向上させることが課題となります。

そのため、本市では地域健康福祉に関する講演会や啓発チラシを発行し、地域や隣近所とのつながりの大切さを浸透させる、「きっかけづくり」を行います。さらに、地域健康福祉プラットフォームを市民にとって親しみをもって、気軽に集える場にし、そこに集まった市民が自発的に困った人を手助けできるよう働きかけます。

(1) 健康福祉コミュニティの形成

本市の健康福祉コミュニティは、地域（まち）を愛し、人間を愛し、そして自分を大切にする人々が暮らし、またそういう人々を育てていく取組が展開されている社会であると考えます。

地域“愛”を育むためには、地域（まち）を知る機会の充実が必要です。そのため、中央生涯学習センターや中央公民館で実施されている各種講座を通じて、本市の誇りや課題などを知り、理解できる学習や活用を図ることによって、それらを地域住民間で共有できるような取組を展開していきます。また、人間“愛”を育むためには、福祉教育やボランティア体験などの充実が必要です。そのため、長岡京市社会福祉協議会のボランティアセンターや市民活動サポートセンターとの連携を図り、支援を必要とする人とのふれあい体験で終わるのではなく、実際の支援活動につなげていけるように発展させていきます。さらに、自己“愛”のある市民づくりのためには、地域で活動している機関・グループの連携と協力のもと、心と体の健康づくりに対する意識啓発から実践までの施策を地域ぐるみで展開していきます。

健康づくりに対しては、地域健康福祉プラットフォームにおいて健康づくり活動を実施している団体などと連携を図り、健康教室や健康講座を開催するとともに、それら団体などの活動拠点になるように働きかけます。

(2) 「自助－互助－共助－公助」による生活支援システムの構築

本市の「自助－互助－共助－公助」による生活支援システムは、地域社会の中で生活課題を抱えている住民の自助を支援したり、互助、共助、公助を組み合わせながら、地域住民、ボランティア・NPO、サービス提供事業者、行政などが連携して、課題の解決にあたっていくシステムであると考えます。

地域健康福祉プラットフォームを拠点に、住民が抱えている生活課題の掘り起こしやそれに対する相談支援を行います。「自助－互助－共助－公助」によって対応が可能なケースについては、地域健康福祉プラットフォームも交えて、地域住民、ボランティア団体、NPO、サービス提供事業所などと連携・協力しながら課題解決を図ります。対応策の検討が必要なケースについては関連機関へつなぎます。総合的な見守りが必要なケースについては、行政や福祉・保健・医療の関係機関と連携を図りながら課題解決を図ります。

(3) ボランティア活動促進システムの構築

本市のボランティア活動促進システムでは、自分のできるちょっとしたお手伝いを促進するため、ボランティアを行いたい人と受けたい人のマッチングを支援するシステムであると考えます。

地域健康福祉プラットフォームにおいては、ボランティアを行いたい人を集める機能とボランティアを受けたい人の声を集め、長岡京市社会福祉協議会のボランティアセンターや市民活動サポートセンターの支援を得て、具体的な活動への発展をめざします。

また、長岡京市社会福祉協議会と連携を図り、ボランティアを養成する講座の紹介などを行います。

■地域健康福祉プラットフォームを拠点とした地域生活支援システムの概念図

